NetBackup™ バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド

リリース 11.2.0.1

COHESITY

NetBackup™ バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド

最終更新日: 2026-10-07

法的通知と登録商標

Copyright © 2026 Cohesity, Inc. All rights reserved.

© 2026 Cohesity, Inc. All Rights Reserved.Cohesity、Cohesity ロゴ、その他の Cohesity マークは、Cohesity, Inc. の米国における、および/または国際的な商標です。ここで提供される情報は、Cohesity の機密情報および専有情報であり、(a) 意図された受信者により、(b) 有効なライセンスを受けた Cohesity ソフトウェアおよびサービスと共にのみ使用することができます。Cohesity ライセンスの条項については、www.cohesity.com/agreements を参照してください。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Cohesity およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

Cohesity サポート

Cohesity サポートへのお問い合わせ

Cohesity サポートケースを作成するには、いくつかの方法があります。

- Cohesity サポートに移動してベリタスのナレッジベースで検索するか、電話で問い合わせます (米国およびカナダ: 1-855-9CO-HESI (926-4374)、オプション 2)。
- Cohesity サポートポータルにログインして、新しいケースを作成します。
- Cohesity UI の (?) アイコンをクリックし、[サポートポータル (Support Portal)]を選択します。

サポートおよびサービスアシスタンス

最初に、サービスおよびサポートを契約したサービスプロバイダにお問い合わせください。Cohesity と直接連携している場合や、製品の保証や資格、修理の価格設定、またはテクニカルサポートに関連する質問がある場合は、以下のオプションを参照してください。

- 製品の問題に対するソリューションや、提案およびベストプラクティスを見つけるには、Cohesity ナレッジベースを参照してください。
- Cohesity サポートポータルにログインして、新しいケースを作成します。
- オープン中のケースを監視するには、ポータルにログインし、ホームページの[ケース (Cases)]タブをクリックします。このページには、すべてのケースの状態と更新が表示されるはずです。個々のケースの状態を表示することもできます。

パートナーのハードウェアで実行されている Cohesity ソフトウェア

認定されたサードパーティ製ハードウェアで動作する Cohesity ソフトウェアの場合、次のサポートワークフローが適用されます。

1. ハードウェアの問題であると判断できない場合は、まず Cohesity サポートにお問い合わせください。

   メモ: Cohesity はパートナーのハードウェアの交換要求を処理できません。

2. Cohesity サポートは問題の優先順位を判断します。ソフトウェアの問題の場合、Cohesity サポートは引き続きこの問題に取り組みます。
3. ハードウェアまたはファームウェアの問題であるかその可能性がある場合、Cohesity は問題に関する情報をお客様に提供し、適切なパートナーに対するサポートチケットを発行するようお客様に依頼します。
4. Cohesity サポートは必要に応じて、パートナーとお客様との三者通話に参加できます。
5. お客様がパートナーのケースの進捗状況を Cohesity サポートに通知します。

目次

第 1 章 概要 5

バックアップ、アーカイブおよびリストアについて 5
バックアップについて 5
アーカイブについて 6
リストアについて 6
ポリシーについて 6
バックアップイメージについて 6
インストールおよび構成について 7
オンラインヘルプについて 7

第 2 章 開始 8

UNIX システムの設定について 8
UNIX ウィンドウマネージャの設定について 8
共通デスクトップ環境 (CDE) の設定 9
Motif に対する設定 9
バックアップ、アーカイブおよびリストアの起動について 10
UNIX でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動 10
Windows でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動 11
［バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)］
アイコン 11

第 3 章 バックアップまたはアーカイブ 16

ファイルおよびディレクトリのバックアップまたはアーカイブ 16

第 4 章 リストア 24

ファイルおよびディレクトリのリストア 24

1

概要

この章では以下の項目について説明しています。

- バックアップ、アーカイブおよびリストアについて
- インストールおよび構成について
- オンラインヘルプについて

バックアップ、アーカイブおよびリストアについて

このマニュアルでは、NetBackup の新規ユーザーを対象に、基本的なバックアップおよびリストアの手順について説明します。

[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]インターフェースは、コンピュータ上の NetBackup クライアントソフトウェアのインターフェースです。NetBackup では、コンピュータ上に存在するファイル、フォルダまたはディレクトリ、ボリュームまたはパーティションをバックアップ、アーカイブおよびリストアすることができます。

バックアップかリストアが必要なコンピュータをクライアントといいます。データのバックアップと取得を管理するコンピュータをサーバーといいます。

[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]インターフェースは、システムで動作するように構成する必要があります。NetBackup 管理者がインストール処理の間にそれを行うことがあります。

バックアップについて

バックアップでは、選択した項目が宛先ドライブにコピーされ、元のファイルはソースドライブに残されます。

バックアップ操作を開始すると、バックアップ対象のデータは、コンピュータ上のクライアントソフトウェアによって NetBackup サーバーに送信されます。その後、データはサーバーからストレージデバイスに書き込まれます。

アーカイブについて

アーカイブでは、選択した項目が宛先ドライブにコピーされ、バックアップが正常に行われた後、その項目がソースドライブから削除されます。

アーカイブ操作を開始すると、バックアップ対象のデータは、コンピュータ上のクライアントソフトウェアによって NetBackup サーバーに送信されます。その後、データはサーバーからストレージデバイスに書き込まれ、元のファイルはソースドライブから削除されます。

リストアについて

リストアでは、選択した項目がサーバーのバックアップイメージから取得され、コンピュータ上にリストアされます。

リストア操作を開始すると、コンピュータ上のクライアントソフトウェアから NetBackup サーバーに対してデータが要求されます。サーバーはクライアントにデータを送信し、このデータを利用してリストアが行われます。バックアップイメージはサーバーに残ります。

ポリシーについて

NetBackup 管理者は、ポリシーを構成します。ポリシーとは、NetBackup がクライアントをバックアップするときに従う規則の定義です。

ポリシーには、NetBackup クライアントの自動的な無人バックアップのスケジュールを設定できます (サーバー主導バックアップ)。

また、ポリシーには、ファイルのバックアップを手動で実行可能な時間帯を定義できます (ユーザー主導バックアップ)。

たとえば、ユーザー主導のバックアップを実行可能な時間範囲 (ユーザー処理時間帯) が午前 8 時から午後 6 時であるとします。これ以外の時間帯には、ユーザーはバックアップまたはアーカイブを実行できません (ファイルのリストアはいつでも実行できます)。

バックアップイメージについて

NetBackup では、1 つのジョブによってバックアップされたすべての項目がバックアップイメージに格納されます。ファイルのリストアを行う場合、1 つ以上のバックアップイメージからリストア対象の項目を選択します。

(NetBackup 管理者が構成する) 一定の期間が経過すると、バックアップイメージの期限が切れる場合があります。期限が切れたバックアップイメージのファイルは、参照またはリストアできません。

インストールおよび構成について

通常、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースをインストールおよび構成するのは、NetBackup 管理者です。インストールと構成には次が含まれます。

- コンピュータ環境内のバックアップ対象となるコンピュータ上に、NetBackup クライアントソフトウェアおよびバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースをインストールして構成します。
- コンピュータ環境内で NetBackup サーバーと連携して動作するようにクライアントソフトウェアを構成します。

NetBackup 環境でユーザー主導の操作が許可されている場合、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを構成する必要はありません。

構成への変更が必要な場合は、NetBackup 管理者にお問い合わせください。

オンラインヘルプについて

このマニュアルでは、バックアップ、アーカイブおよびリストアタスクの基本的な手順について説明します。詳細情報はヘルプで利用可能です。

[ヘルプ (Help)]メニューからオンラインヘルプを開くか、ダイアログボックスの[ヘルプ (Help)]アイコンをクリックします。

次の表に、ヘルプで利用可能な情報の一部を示します。

バックアップとアーカイブのトピック	■ バックアップとアーカイブの形式 ■ ユーザー主導バックアップ ■ サーバー主導バックアップ ■ 完全バックアップ ■ 累積増分バックアップ ■ 差分増分バックアップ ■ True Image Backup
リストアのトピック	■ リストアの宛先 ■ リストアオプション ■ 特定の日付からのリストア ■ True Image Backup のリストア ■ 代替クライアントへのリダイレクトリストア (管理者のみ)
その他のトピック	■ リストアを行う項目の検索手順 ■ 他のバックアップサーバーを指定する手順 (ご使用の環境で許可されている場合) ■ ウィンドウ、メニューおよびダイアログボックスのインターフェースの参照項目

2

開始

この章では以下の項目について説明しています。

- UNIX システムの設定について
- バックアップ、アーカイブおよびリストアの起動について
- ［バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)］アイコン

UNIX システムの設定について

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使い始める前に、UNIX 環境が正しく設定されていることを確認してください。

UNIX、Linux および Macintosh OS X システムの場合、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースは、Java ベースのグラフィカルユーザーインターフェースです。

以降の項で、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェース用に UNIX 環境を設定する方法について説明します。

p.8 の「UNIX ウィンドウマネージャの設定について」を参照してください。

p.9 の「共通デスクトップ環境 (CDE) の設定」を参照してください。

p.9 の「Motif に対する設定」を参照してください。

UNIX ウィンドウマネージャの設定について

ウィンドウ内をクリックすることでウィンドウがアクティブになるようにウィンドウマネージャを設定します。

自動フォーカスは有効にしないでください。自動フォーカスを有効にした場合、マウスのポインタをウィンドウ上に移動すると、そのウィンドウがアクティブになります。
NetBackup-Java インターフェースは、自動フォーカスを有効にしていると適切に実行されません。

UNIX の他のインターフェース

NetBackup は UNIX システムに追加インターフェースを提供します。

次のインターフェースを使用してユーザー主導の操作を実行できます。ただしCohesityは、ユーザー主導の操作にはバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの使用をお勧めします。

メニューユーザーインターフェース (MUI)	このインターフェースは、クライアントシステムに接続可能な端末で使用できます。メニューインターフェースプログラムは、bp コマンドによって起動します。 MUI を使用する方法についてはインターフェースの bp のマニュアルページとヘルプを参照してください。
コマンドラインインターフェース (CLI)	コマンドを使用すると、シェルプロンプトでバックアップ、アーカイブおよびリストア操作を実行できます。 コマンド情報については、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

共通デスクトップ環境 (CDE) の設定

NetBackup Java アプリケーションには、CDE ウィンドウマネージャが推奨されています。

CDE ウィンドウマネージャを設定するには次の手順を使用します。

CDE をバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェース用に構成する方法

1. CDE ウィンドウのフロントパネルで、[スタイル・マネージャ]アイコンをクリックします。
2. スタイルマネージャのツールバーで、[ウィンドウ]アイコンをクリックします。
3. [スタイル・マネージャ - ウィンドウ]ダイアログボックスで、[クリックでウィンドウをアクティブに]をクリックします。
4. [OK]をクリックします。
5. ワークスペースマネージャを再起動するかどうかの確認メッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

Motif に対する設定

Motif ウィンドウマネージャを使用するには、次の手順に従います。

Motif に対して設定する方法

- 次のように、`Mwm*keyboardFocusPolicy` X リソースを設定します。

```
Mwm*keyboardFocusPolicy:explicit
```

バックアップ、アーカイブおよびリストアの起動について

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースは、次の方法で起動して実行できます。

UNIX NetBackup クライアントの場合	p.10 の「UNIX でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動」を参照してください。
Windows NetBackup クライアントの場合	p.11 の「Windows でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動」を参照してください。

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースおよびその使用方法について詳しくは、ヘルプを参照してください。

UNIX でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用して、ユーザーアカウントが存在する UNIX システム上で NetBackup クライアントにログインできます。バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースからは、そのクライアント上でのバックアップ、アーカイブおよびリストアを実行できます。

メモ: jbpSA コマンドのオプションについて詳しくは、jbpSA のマニュアルページを参照してください。

UNIX でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動する方法

1. バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを実行するコンピュータにログインします。
2. バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動するには、次のコマンドを入力します。

   ```
   /usr/openv/netbackup/bin/jbpSA &
   ```

3. [ログイン (Login)]ダイアログボックスで、バックアップ、アーカイブまたはリストアを実行するクライアントの名前を入力します。

   そのクライアントに対して有効なユーザーアカウントおよびアクセス権が必要です。
4. ユーザー名を入力します。
5. パスワードを入力します。
6. [ログイン (Login)]をクリックします。

Windows でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動

Windows システムでバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動するには次の手順を使用します。

Windows システムでバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動する方法

1. ［スタート］> ［プログラム］> ［Veritas NetBackup］> ［バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)］をクリックします。
2. NetBackup のアクセス管理を使用して NetBackup 環境へのアクセスを制御している場合は、ユーザー名、パスワードおよびドメイン情報の入力が必要となる場合があります。

［バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)］アイコン

表 2-1には、Microsoft Windows デスクトップに表示される可能性のある NetBackup アイコンについて記載されています。

表 2-1 Windows デスクトップの［バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)］アイコン

アイコン	説明
	［バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)］インターフェースを表します。Windows の［スタート］メニューおよび Windows エクスプローラに表示されます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行されていても、バックアップまたはリストアが行われていないことを示します。システムトレーに表示されます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行され、1 つ以上のリストア処理が行われていることを示します。システムトレーに表示されます。黄色い矢印が点滅している場合、NetBackup Client Job Tracker を開いてリストア操作の状況を確認することができます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行され、1 つ以上のバックアップ処理が行われていることを示します。システムトレーに表示されます。黄色い矢印が点滅している場合、NetBackup Client Job Tracker を開いてバックアップ操作の状況を確認することができます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行され、1 つ以上のバックアップ処理および 1 つ以上のリストア処理が行われていることを示します。システムトレーに、黄色い矢印が点滅している状態で表示されます。

表 2-2には、Windows に表示されるツールバーアイコンについて記載されています。

表 2-2 Windows の［バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)］のツールバーアイコン

アイコン	説明
	［バックアップ (Backup)］ウィンドウを開き、バックアップする項目にマーク付けできます。
	［リストア (Restore)］ウィンドウを開き、リストアする項目にマーク付けできます。
	［状態の表示 (View Status)］ダイアログボックスを開き、ユーザー操作の進捗を監視できます。
	［リストア (Restore)］ウィンドウの［NetBackup の履歴 (NetBackup History)］ペインのバックアップイメージを更新します。この機能は、［リストア (Restore)］ウィンドウが表示され、アクティブである場合だけ使用できます。
	［トラブルシュータ (Troubleshooter)］を開きます。
	バックアップ、アーカイブおよびリストアのヘルプを開きます。

表 2-3には、インターフェース全体に表示されるアイコンについて記載されています。

表 2-3 ［バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)］アイコン

アイコン	説明
	［バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)］アイコン。
	バックアップアイコン。
	リストアアイコン。
	Windows でフロッピーディスクドライブを表します。
	Windows で論理ハードドライブを表します。
	Windows で CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブを表します。

アイコン	説明
	Windows でネットワークドライブを表します。
	Windows でクライアント PC を表します。
	閉じたディレクトリ (フォルダ) を表します。他の項目が含まれている場合と含まれていない場合があります。
	開いたディレクトリ (フォルダ) を表します。他の項目が含まれている場合と含まれていない場合があります。
	バックアップまたはリストアの対象として、すべての内容がマーク付けされているファイルまたはディレクトリ (フォルダ) を表します。
	バックアップまたはリストアの対象として、内容の一部がマーク付けされているディレクトリ (フォルダ) を表します。
	バックアップまたはリストアの対象としてマーク付けされていないファイルまたはディレクトリ (フォルダ) を表します。
	バックアップまたはリストアの対象としてすべての内容がマーク付けされていても、それ自体はマーク付けができない項目を表します。
	バックアップまたはリストアの対象として内容の一部がマーク付けされていても、それ自体はマーク付けができない項目を表します。
	それ自体はバックアップまたはリストアの対象としてマーク付けできないが、バックアップまたはリストアの対象としてマーク付け可能な項目を含む項目を表します。
	内容の一部がバックアップされたディレクトリ (フォルダ) を表します。
	UNIX と Linux の Java BAR GUI で Java ファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java BAR GUI で Java クラスファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java BAR GUI でプログラムファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java BAR GUI で HTML ファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java BAR GUI で UNIX リンクを表します。

アイコン	説明
	UNIX と Linux の Java BAR GUI で読み取り専用ファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java BAR GUI でテキストファイルを表します。
	ファイルを表します。Microsoft Windows では、他のアイコンを使用して、さまざまなファイル形式を表す場合があります。
	UNIX と Linux の Java BAR GUI でビットマップ、GIF またはアイコンファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java BAR GUI で実行中のバックアップまたはリストアを表します。
	UNIX と Linux の Java BAR GUI で正常なバックアップまたはリストアを表します。
	UNIX と Linux の Java BAR GUI で失敗したバックアップまたはリストアを表します。
	Windows で複数の Windows ボリュームシャドウコピーコンポーネントを表します。
	Windows で Windows のシステムサービスを表します。
	Windows で Windows のシステム状態を表します。
	Windows で Windows ボリュームシャドウコピーユーザーデータを表します。
	Windows で複数の Windows ボリュームシャドウコピーデータを表します。
	Windows で Windows ボリュームシャドウコピーライターを表します。
	Windows で Windows ボリュームシャドウコピーコンテナを表します。
	Windows で 1 つの Windows ボリュームシャドウコピーコンポーネントを表します。
	Windows で Windows レジストリ全体を表します。 レジストリは、HKEY_LOCAL_MACHINE および HKEY_USERS の 2 つの基本キーに対して表示されます。
	Windows でレジストリキーを表します。

アイコン	説明
	Windows で Windows のブートファイルを表します。
	Windows で Windows COM データベースを表します。
	Windows でネットワーク全体を表します。
	Windows で特定のネットワークを表します。
	Windows でネットワーク内のドメインを表します。

3

バックアップまたはアーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- ファイルおよびディレクトリのバックアップまたはアーカイブ

ファイルおよびディレクトリのバックアップまたはアーカイブ

バックアップでは、項目は別のドライブまたはストレージデバイスにコピーされます。元のファイルはソースドライブに残ります。

アーカイブの場合も、項目は別のドライブまたはストレージデバイスにコピーされます。バックアップが正常終了すると、元のファイルはソースドライブから削除されます。

次の項目をバックアップまたはアーカイブすることができます。

UNIX および Linux	■ ファイル ■ ディレクトリ ■ パーティション

Windows

- ファイル
- フォルダ
- ボリューム
- レジストリキー
- システム状態コンポーネント
- システムサービスコンポーネント
- EFI システムパーティション (IA64 システムのみ)
- シャドウコピーコンポーネント

メモ: IA64 システムでは、シャドウコピーのバックアップにシステム状態コンポーネントと EFI システムパーティションが自動的に含まれます。システム状態コンポーネントのみをバックアップする場合には、正常にバックアップするために EFI システムパーティションも選択する必要があります。

次の手順を使用すると、ユーザー主導の (手動の) バックアップまたはアーカイブ操作を実行できます。

[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]インターフェースの使用方法について詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

バックアップ、アーカイブおよびリストアを使用してバックアップまたはアーカイブする方法

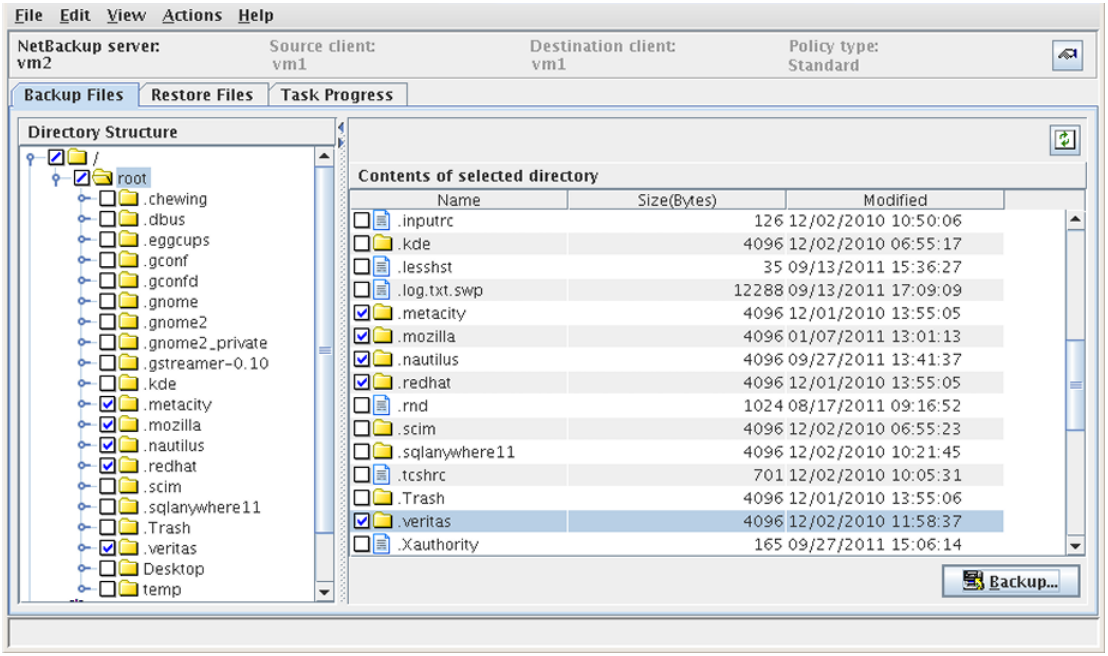
1 該当するプラットフォームに対して、次のとおりバックアップを開始します。

UNIX および Linux [バックアップ (Backup Files)]タブをクリックします。

メニューバーの下の領域には、NetBackup が現在どのように操作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

- NetBackup サーバー
- ソースクライアント
- 宛先クライアント
- ポリシー形式

次に、[バックアップ (Backup Files)]タブの例を示します。



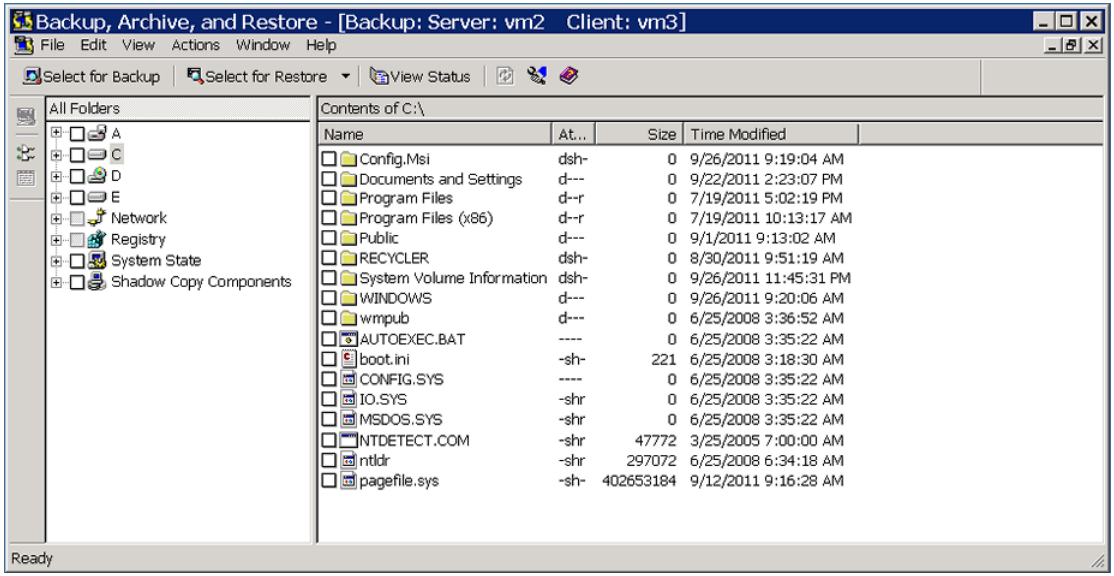
Windows

[バックアップ (Backup)]ウィンドウを開くには、[ファイル (File)]、[バックアップするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Backup)]の順にクリックするか、[バックアップの選択 (Select for Backup)]アイコンをクリックします。

ウィンドウのタイトルバーには、NetBackup が現在どのように操作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

- サーバー
- クライアント

次に、バックアップ処理時間帯の例を示します。



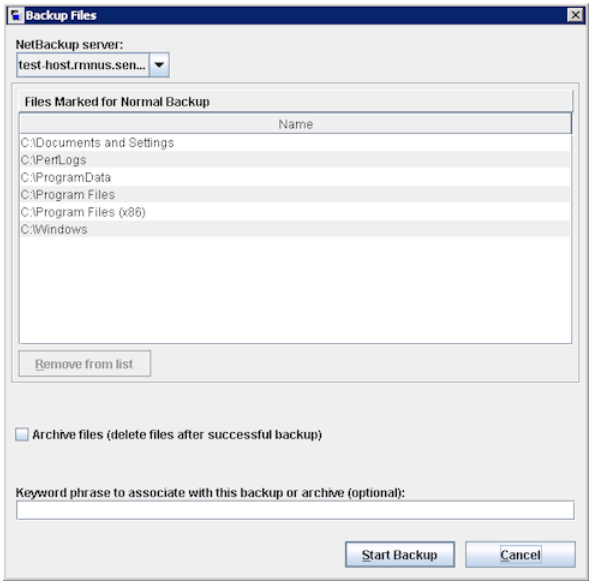
2 バックアップする項目を選択するには、画面で項目の左側にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。

個々の項目の隣にあるチェックマークは、それらの項目が選択されていることを示します。ディレクトリ (フォルダ) の隣のチェックマークは、ディレクトリのすべての項目が選択されていることを示します。ディレクトリの隣のスラッシュマークは、その中の一部の項目のみが選択されていることを示します。

3 選択した項目のバックアップ方法を設定するには、次の操作を実行します。

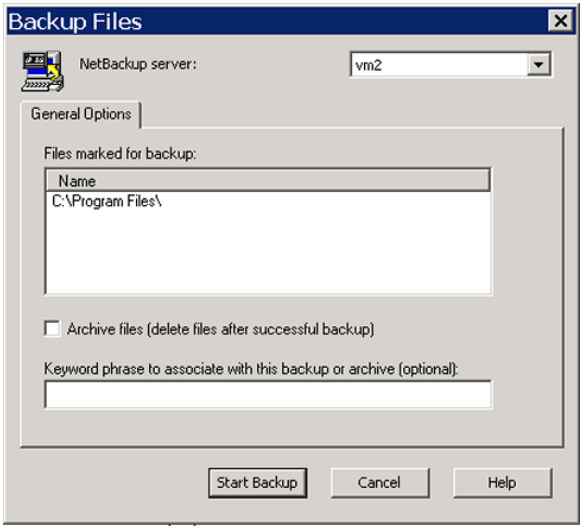
UNIX および Linux　［バックアップ (Backup)］ボタンをクリックします。

次に、［バックアップ (Backup Files)］ダイアログボックスの例を示します。



Windows　［処理 (Actions)］、［バックアップ (Backup)］の順にクリックします。

次に、［バックアップ (Backup Files)］ダイアログボックスの例を示します。


Backup Files
NetBackup server:
vm2
General Options
Files marked for backup:
Name
C:\Program Files\
Archive files (delete files after successful backup)
Keyword phrase to associate with this backup or archive (optional):
Start Backup
Cancel
Help

4 ［バックアップ (Backup Files)］ダイアログボックスで、次のオプションのいずれかを選択または指定します。

NetBackup サーバー	ドロップダウンメニューから別のサーバーを選択して、バックアップ操作が実行される NetBackup サーバーを変更できます。 通常、別のプライマリサーバーを指定する必要はありません。ただし、複数のプライマリサーバーにバックアップを送信できる場合は、正しいプライマリサーバーを指定していることを確認してください。
リストからの削除 (Remove from list)(UNIX のみ)	［通常バックアップ用にマークされたファイル (Files Marked for Normal Backup)］リストには、バックアップのためにマークを付けたすべての項目が表示されます。削除する項目がある場合、その項目をクリックした後、このオプションをクリックします。
ファイルをアーカイブする (バックアップが正常に終了した後でファイルを削除する)(Archive files (delete files after successful backup))	バックアップが正常に行われた後で、ソースドライブから自動的に項目を削除します。
このバックアップまたはアーカイブと関連付けるキーワード句 (オプション)(Keyword phrase to associate with this backup or archive (optional))	バックアップにキーワード句を関連付けるには、その情報をここに入力します。後でこれらのファイルのリストアを行う場合、バックアップされた項目をこのキーワード句で検索できます。

5 ［バックアップの開始 (Start Backup)］をクリックします。

6 バックアップの進捗状況を表示するには、次の操作を実行します。

Windows システムの場合:	表示される［状態の表示 (View Status)］ダイアログボックスで、［はい (Yes)］をクリックします。
UNIX システムの場合:	表示される［タスクの進捗 (Task Progress)］タブで、［はい (Yes)］をクリックします。

メモ: バックアップジョブの進捗ログはデフォルトのログファイルに格納されます。ジョブのデフォルトのログファイルのパスは［タスクの進捗 (Task Progress)］タブの［上記のタスク選択の結果 (Results of the Task Selection Above)］ペインに表示されます。

バックアップが完了するまで数分かかる場合があります。バックアップ操作を開始した後、［バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)］インターフェースを閉じて、他のタスクを実行できます。NetBackup はバックグラウンドで操作を継続します。

4

リストア

この章では以下の項目について説明しています。

- ファイルおよびディレクトリのリストア

ファイルおよびディレクトリのリストア

このトピックでは、バックアップしたものをリストアする方法を以下に説明します。

- 通常バックアップまたはアーカイブバックアップから。
- アレイベースのスナップショットからの個々の項目。

通常バックアップまたはアーカイブバックアップの手順には、次のタスクが含まれています。

- リストアを行う項目を検索します。
- 項目をリストアする宛先を選択します。
- 適切なリストアオプションを選択します。
- リストアのジョブ優先度を変更します (任意)。

他のリストア形式については、オンラインヘルプを参照してください。

ファイルとフォルダをリストアするには

1 次のようにリストアを開始します。

UNIX および Linux

- [リストア (Restore Files)]タブをクリックします。

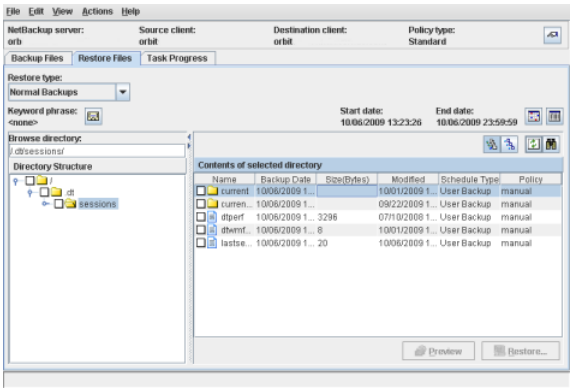
  メニューバーの下の領域には、NetBackup が現在どのように操作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

  - NetBackup サーバー
  - ソースクライアント
  - 宛先
  - ポリシー形式
- [リストア形式 (Restore type)]ドロップダウンリストで、[通常バックアップ (Normal Backups)](デフォルト) または[アーカイブバックアップ (Archived Backups)]のいずれかを選択します。
- [表示 (View)]、[更新 (Refresh)]の順にクリックします。

インターフェースの右ペインでディレクトリを選択した場合、最新のイメージのみがリストア用に選択されます。左ペインでディレクトリが選択された場合は、すべての時間範囲のイメージが選択されます。

ディレクトリからすべてのデータをリストアすることが目的の場合は、左側のペインからディレクトリを選択します。ディレクトリを選択すると、選択した時間範囲のすべてのイメージが追加され、リストアされるデータ量が増えます。この処理はすべてのバックアップ形式に適用されます。

次に、[リストア (Restore Files)]タブの例を示します。



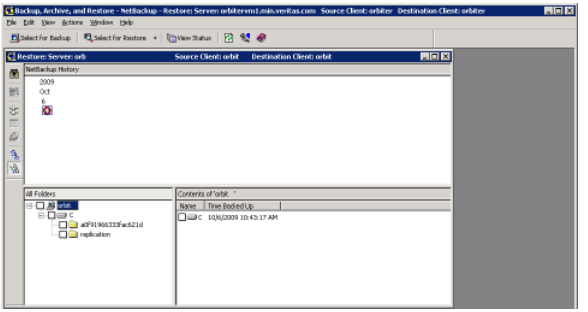
Windows の場合

- [ファイル (File)]、[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]の順にクリックし、[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)]または[アーカイブバックアップからリストア (from Archived Backup)]のいずれかを選択します。

  NetBackup によってバックアップイメージが取得され、リストア可能なファイルのリストが作成されるまでに、時間がかかる場合があります。

  ウィンドウのタイトルバーには、NetBackup が現在どのように操作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。
  - サーバー
  - ソースクライアント
  - 宛先クライアント

次に、リストアウィンドウの例を示します。



2 リストアする項目を選択するには、画面で項目の左側にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。

個々の項目の隣にあるチェックマークは、それらの項目が選択されていることを示します。ディレクトリ (フォルダ) の隣のチェックマークは、ディレクトリのすべての項目が選択されていることを示します。ディレクトリの隣のスラッシュマークは、その中の一部の項目のみが選択されていることを示します。

インターフェースの右ペインでディレクトリを選択した場合、最新のイメージのみがリストア用に選択されます。左ペインでディレクトリが選択された場合は、すべての時間範囲のイメージが選択されます。

ディレクトリからすべてのデータをリストアすることが目的の場合は、左側のペインからディレクトリを選択します。ディレクトリを選択すると、選択した時間範囲のすべてのイメージが追加され、リストアされるデータ量が増えます。この処理はすべてのバックアップ形式に適用されます。

3 NetBackup でリストアを実行するために必要なリムーバブルメディア (テープなど) のリストをプレビューするには、次を実行します。

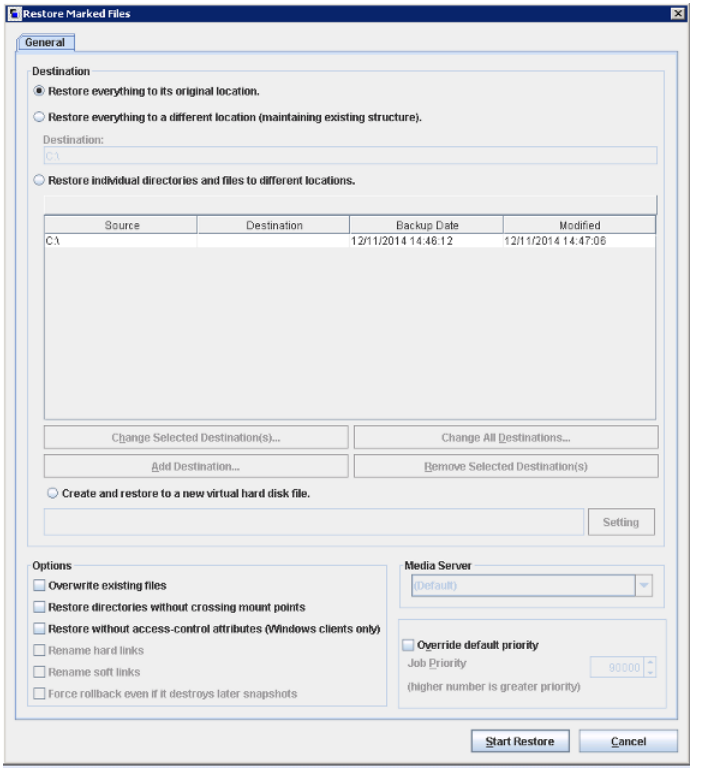
- Windows システムの場合、[処理 (Actions)]、[メディアのプレビュー (Preview Media)]の順にクリックします。
- UNIX システムの場合、[プレビュー表示 (Preview)]をクリックします。

リストアする項目がディスクストレージユニット上に存在するバックアップイメージにある場合は、プレビューにメディアは表示されません。

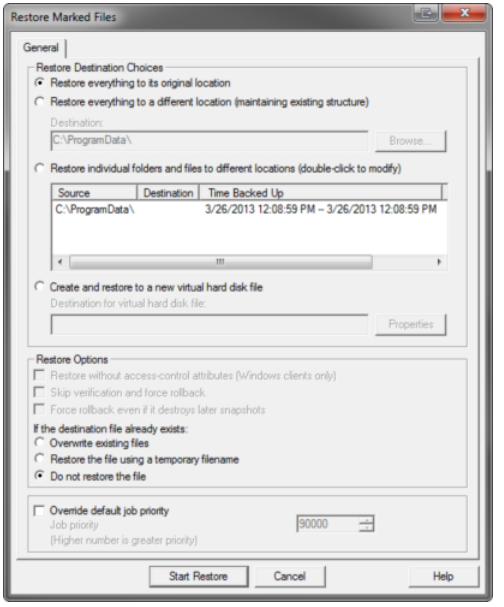
[OK]をクリックして、このダイアログボックスを閉じます。

4 選択した項目のリストア方法を設定するには、次を実行します。

- UNIX システムの場合、[リストア (Restore)]をクリックします。
  次に、[マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスの例を示します。



- Windows システムの場合、[処理 (Actions)]、[マークされたファイルのリストアの開始 (Start Restore of Marked Files)]の順にクリックします。
  次に、[マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスの例を示します。



5 ［マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)］ダイアログボックスで、リストアの要件を満たすために次のオプションを選択します。

宛先 (Destination)

次の宛先オプションのいずれかを選択します。

- 元の位置にすべてをリストア (Restore everything to its original location) (デフォルト)
- すべてを異なる位置にリストア (既存の構造を維持) (Restore everything to a different location (maintaining existing structure))
- 個々のディレクトリやファイルを異なる場所にリストア (Restore individual directories and files to different locations)、個々のフォルダおよびファイルを異なる位置にリストア (Restore individual folders and files to different locations)
- 新規仮想ハードディスクファイルを作成してリストア (Create and restore to a new virtual hard disk file) (Windows システムのみ)

各オプションについて詳しくは、ヘルプを参照してください。

リストアオプション (Restore Options)

UNIX システムでは、次のリストアオプションから選択します。

- 既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)
- クロスマウントポイントなしで、ディレクトリをリストア (Restore directories without crossing mount points)
- アクセス制御属性なしでリストアする (Windows クライアントのみ) (Restore without access-control attributes (Windows clients only))
- ハードリンクの名前の変更 (Rename hard links)
- ソフトリンクの名前の変更 (Rename soft links)

Windows システムでは、次のリストアオプションから選択します。

- アクセス制御属性なしでリストアする (Windows クライアントのみ) (Restore without access-control attributes (Windows clients only))
- 既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)
- 一時ファイル名を使用してファイルをリストア (Restore the file using a temporary filename)
- ファイルをリストアしない (Do not restore the file) (デフォルト)

各オプションについて詳しくは、ヘルプを参照してください。

ジョブの優先度 (Job Priority)

[デフォルトの優先度を上書きする (Override default priority)]チェックボックスをクリックして優先度番号を設定することによってこのリストアの優先度を変更できます。

デフォルトは 90000 です。利用可能な範囲は 0 から 99999 です。数字が大きいほど優先度は高くなります。

この機能について詳しくは、ヘルプを参照してください。

6 [リストアの開始 (Start Restore)]をクリックします。

7 リストアの進捗状況を表示するには、次を実行します。

- Windows システムでは、表示される[状態の表示 (View Status)]ダイアログボックスで、[はい (Yes)]をクリックします。
- UNIX システムでは、表示される[タスクの進捗 (Task Progress)]タブで、[はい (Yes)]をクリックします。

メモ: バックアップジョブの進捗ログはデフォルトのログファイルに格納されます。ジョブのデフォルトのログファイルのパスは[タスクの進捗 (Task Progress)]タブの[上記のタスク選択の結果 (Results of the Task Selection Above)]ペインに表示されます。

リストアが完了するまで数分かかる場合があります。リストア操作を開始した後、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]インターフェー

スを閉じて、他のタスクを実行できます。NetBackup はバックグラウンドで操作を継続します。